

ゆめぴか通信

「ゆめぴか通信」は、地域で働く看護職に向けて、鹿児島県看護協会保健師職能委員が作成し、情報発信する機関誌です。

本年度、第 1 回目の保健師研修会を開催しました！

平成 26 年 7 月 18 日（金）に研修会を開催しました。唐津市保健師の城浩子先生、元厚生労働省健康局長（現千葉県病院局長）の矢島鉄也先生にご講演いただきました。今回はその様子を中心に報告します。

“組織や個人に、いかに変化を起こしていくか”を考える－唐津市の城浩子先生に学ぶ

保健師活動最適化のための有効な機会として、看護協会施行事業を活用し実践的に変革に取り組まれた唐津市の活動について、お話しいただきました。特に印象的だったのは『大切にしたいことは何か？』『何を実現したいのか？』『どのように取り組むのか？』『どう次につなげるか？』を常に考察しながら『組織をどう巻き込むか？』を思考過程に組み込んでいくことで、よりダイナミックな成長展開を描こうとされるチャレンジングな姿でした。

講演の様子－ワクワクするお話でした！



語り合いの場面－笑いあり、頷きあり、感動あり



フロアからも反響が大きく、多くの質問が投げかけられました！

唐津市で 30 人の保健師が
思いをひとつにして取り組
める秘訣・工夫は？

“話し合い”を大切にすること。それともう一つは、“みんなの声を聴くとき”と、そうでないときと分ける。「やるからついてきて！」のときもある。闘うときには、「言うときはいうわよ！」と伝えているつもりです！ by 城先

‘共に働く仲間の顔が浮かんでいるかのごとく’ 楽しげに語る城先生－メンバー同士「こうすると面白いね」が自由につぶやき合える“土壌づくり”にこそ、その取り組みの本質があるように感じました。

看護協会（2014）発行『市町村保健活動のあり方に関する検討報告書Ⅲ－市町村保健活動を推進するための方策』（<http://www.nurse.or.jp/home/publication/>）に、上記の施行事業の様子がまとめられています。「業務チャート」「ピットシート」などの“保健師活動を最適化するツール”を、活用

“データを読み取ることのできる保健師になろう！”－ 矢島鉄也先生から学ぶ

開口一番「(健診・レセプト・介護保険)データを読み取れる保健師になって欲しい！」とのメッセージを以て熱く語り始めた矢島先生。「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」の改正を踏まえ、データヘルス解析を活用した地域診断の重要性について、語り尽くされました。

講演の様子－2時間、熱く！熱く！熱く！



語り合いの場面－いかにして、取り込めるか



「具体的かつ考え抜かれたデータを効果的に提示することによって “住民が自分で考える” 健康なまちがつくられていく」そして、「客観的な指標は、保健活動の評価材料となる！」－伝え手がパッションをもって思考することの大切さを肌で感じる機会ともなりました！

上記に関連して、月刊地域保健 4月号(2014)では、『[地域を健康にするデータ活用とは](#)』と題して、鼎談が掲載されています。“無関心層を巻き込むには？”“「健康」をキーワードに地域のつながりを広げるにはどうすれば良い？”“職域との連携で『地域デビュー』をどうやってスムーズにできる？”など数々の実践例とともに、多くの手掛かりが記されています。まさに、役立つ情報が満載

今回の研修会では、保健師61名(学生5名)に参加いただいたなかでの開催となりました。なんと「今日は、どうしても話を聞きたくて！」と退職された諸先輩方の参加の姿もあり、身の引き締まる思いでした。

<お知らせ> 次回の研修会は、平成26年11月21日(金)です！

本年度も、計3回の研修会を企画します。次回は11月21日(金)「事例検討会」(保健指導ミーティング)を予定しています。詳細は、後日改めてお知らせ致します。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

「あったらいいな」－アイデア募集します！

「こんなアイデアがあるんだけどなあ…」「鹿児島(かごんま)保健師同士がつながっていける、こんな場やネットワークがあったらいいな！」「やってみたい持ち込み企画があるんだけど…」など、ご希望・ご意見・アイデアなどがありましたら、いつでも職能委員にご連絡ください。